

島根県総合開発審議会(平成15年度第3回)議事要旨

(開催要旨)

1. 日 時 平成16年3月26日(金)14:00~16:00
2. 場 所 サンラポーむらくも(松江市)
3. 出席者 会長 本田雄一 島根大学学長
委員 天川藤信 島根県森林組合連合会副会長
委員 池田真理香 五箇村地域福祉センター所長
委員 石原奈津子 (有)茄子の花代表取締役
委員 猪野郁子 島根大学保健管理センター所長
委員 牛尾ちえの (株)メイワ代表取締役
委員 梅林益美 環境とITを考える消費者の会代表
委員 岸 宏 島根県漁業協同組合連合会会長
委員 中尾 翼 VLC(株)代表取締役
委員 日高政恵 福祉ボランティア
委員 福代俊子 JAしまね女性協議会会長
委員 古瀬 禦 島根県中小企業団体中央会名誉会長
(五十音順)

(議事次第)

1. 開 会
2. 島根県政策企画局統括政策企画監あいさつ
3. 議 事
(1) 島根県総合計画基本構想編(案)について
4. その他
5. 閉 会

(配付資料)

- 資料1 島根県総合計画基本構想編(案)
資料2 総合計画の今後の取り扱いについて
資料3 島根県総合開発審議会での意見・質問事項
資料4 島根県総合開発原案パブリックコメント【募集結果の概要】
(参考資料) 平成16年2月定例会 財政健全化特別委員会委員長中間報告要旨
(参考資料) 島根県総合計画原案パブリックコメント集計表
(参考資料) 前回(29回)総合開発審議会議事録

(意見) 発言順

天川委員

- ・県が担う市町村の補完的機能について、本文では「補完的な役割を担うことも必要であると考えられます」とあるが、実質的に支援策も考えるという意味で「必要であります」と断言した方が良いのではないか。

古瀬委員

- ・「ITの進展と経済社会の動き」において、国際的な競争論、競争力を強めるということは妥当だが、経済支援にあたっては基本論だけでは不十分であり、理論的にもその補完的な面を加える必要がある。例えば「経済運営にあたっては、日本的な和を尊び、個人だけで

はなくて組織で成果を上げる」とか「取引先との信頼関係の上に共存共栄を求める姿勢も引き続き留意する必要がある」といった内容を加えてはどうか。

- ・本県は観光資源が豊かだが、それが十分産業化されて実績を上げるにいたっていない。住民のホスピタリティの浸透が観光行政のポイントだと思うので、記述をお願いしたい。
- ・政策 - 1のタイトル「一人ひとりを尊重する人づくり」について。例えば多発する犯罪など、誤った個人主義に陥ることで引き起こされる様々な問題が表面化している今の世相を考えると、「公」「公共心」「愛郷心」「愛国心」そういったものを包括するものの人づくりの基本におくべきではないか。せめても「一人ひとりと社会を尊重する人づくり」という表現にしてはどうか。

池田委員

- ・地方分権が進展するなかで、各地域、小規模自治体に住んでいる一人ひとりの県民に対して県が負うべき公的責任はどうなっていくのか。
- ・受益者負担という考え方を悪いとは思わない。本当に必要なサービスを受けるために必要な負担は受ける、という考え方がこれからの時代では当たり前になると思う。その意味で「痛みを伴う」という表現には賛成できない。
- ・厳しい財政状況にあっても地域が知恵を出し合い本当に住みやすい地域をつかっていくためには、政策の柱「人づくり」が最も重要であると思う。住民の要望、要求が政策を構築していくという考え方にたてば、住民自身がどんな政策が必要かと言うことを主体的に考えていくための自治能力を高めること、主体的な人づくりをすすめることが一番の要になると思う。

福代委員

- ・基本構想編では本県の農業構造そのものに対して十分な把握ができていない。「地産地消」や「鳥獣被害」などは農業でも細かい部分であり、基本構想編ではなく各施策に盛り込めば十分と考える。現在の本県農業の現状をまとめた資料を準備したので一読いただきたい。
- ・農林水産業、商業、観光これらを一体的に進めていくことが一番大事であると思うが、そういった連携について触れられていないのではないかな。
- ・男女共同参加は今、県をあげての大きな課題になっている。この理念なり現状認識をきちんととらえて基本構想編に入れていくべきではないかと感じる。

日高委員

- ・地産地消は、単に農業という部分だけではなく、子どもの食育や福祉といった新しい地域づくりの視点の中に重要な要素があると思う。
- ・農山村と都市住民との交流は、21世紀の島根づくりの中で財政が厳しくとも推進していくことが必要であり、その中では農業改良普及所の技術・知識の地域還元が必要と考える。
- ・ITの強力な推進において、これからは語学力、特に英語の基礎能力をもった県民を増やす必要がある。そういう面で、生涯学習の振興の部分にも力を入れてほしい。
- ・文化と観光とをつなげるには、茶道や生け花などの趣味を新しい地域づくりの一つのビジネスにつなげるような切り口が必要であると思うのでヒントにしてほしい。

中尾委員

- ・政策 - 4「産業を担う人づくり」に「経済交流分野で活躍できる人づくり」という施策がなぜ入らないのか。例えば県立大学で経済に即座に直結するような教育を行って海外から人を集め、また海外からの誘致企業にも対応できる人材を育成するなど、「国際化に対応した人材育成」といった項目が必要ではないか。

石原委員

- ・数値目標をあげてチェックしていくという進行管理の話があり、数値目標は大事なことであるが、目に見えない部分、数字に表れない部分の正しい評価も大切と考える。

- ・ 島根県は「顔が見えやすい県」であり、特に野菜とか食材に関しては、だれが、いつ、どこでどういう風につくったかがよくわかり、そういった食材はインターネットでも販売促進できる。企業人として、信頼、安心される情報をきちんと公表していく役割が大切になると感じている。県も、様々な事業を実施するなかで本当に県民に信頼される情報公開を行うことが重要である。

猪野委員

- ・ 島根県は伝統産業の育成とか農林水産業の新たな担い手といった点を重視すべきである。
- ・ 島根に行けば高収入はなくても人間らしい暮らしができるという「スローライフ」を強調してはどうか。
- ・ 県民への情報提供においては、インターネットを過信せずあらゆる方法で行ってほしい。

牛尾委員

- ・ 「子育てするなら島根が一番」というルーズが気に入っている。子育てできるすばらしい環境である島根をもっと全面に出して施策を展開してほしい。

梅林委員

- ・ 地域資源という言葉の中には人も入っており、ITを活用した人々の複合的なネットワークを通じての施策は完全に実施してほしい。電子自治体も必要なことであり、目指してほしい。
- ・ 市町村合併を経て地域は確実に変わっていくと思う。こうした中での県の市町村に対する補完的役割は必要であり強調してほしい。

天川委員

- ・ 狂牛病、E型肝炎、鳥インフルエンザ等への対応・対策、考え方を示す必要がある。
- ・ 鳥獣保護の問題、ペットの適正飼育に対する考え方なども別な場でPRされるようお願いしたい。